



学校だより

9月号

横浜市立大道小学校
令和5年8月28日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「寺子屋」

38日間の夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年の夏は、連日の猛暑やお盆時期の台風の影響などで、子どもたちは思うように過ごすことができなかつたかもしれません。8月下旬になっても続く猛暑に、「一体いつになったら、熱中症を気にせずに活動ができるようになるのだろう。」とあってしまいます。皆様、どうかご自愛ください。

今年は、改めて大道小の地域の「力」を感じる夏になりました。

8月の初旬、西大道町内会館で行われている「寺子屋」を訪問してきました。これは、西大道町内会が、地域の小学生を対象に、夏休みの3日間、学習や遊びなどの「場」を提供するものです。学習支援は、地域の方に加え、大学生のボランティアが行います。昼食も地域の方々の手作りで、この日も「カレーライス」のいい匂いがただよっていました。町内会の飯塚会長によると、この「寺小屋」は、10年程前から行っている取組で、夏休み期間中、地域の子どもたちが集まって勉強をしたり、食事をしたり、遊んだりする場をつくることで、子どもたち同士のつながりを深めながら、地域全体で子どもたちを育てていこうというねらいで行っているとのことでした。コロナ禍のため、今回は4年ぶりの開催ということです。

私がお邪魔をした時は、1～6年生の約20名が参加しており、ほとんどの子が夏休みの課題に取り組んでいました。学年ごとのグループに分かれ、それぞれに、地域の方やボランティアの学生が付いて見守ったり、アドバイスをしたりしています。私に気が付くと、人懐っこい「大道っ子」たちが、いつものように「あっ、校長先生!」と、笑顔で迎えてくれました。そこで印象に残ったのは、子どもたちの学習そのものではなく、そこに流れる「空気」です。夏休み中ということもあり、子どもたちは、教室での学習に比べて、リラックスしているようでした。決して「うるさい」というわけではないのですが、自然におしゃべりができるような、「ふわっ」とした温かい雰囲気流れているのです。ですから、「集中して学習しているか。」と問われると、必ずしも「している」とは言えないかもしれませんが、子どもたちが一定のルールやマナーを守りながら、安心して取り組んでいるのが分かりました。加えて、上級生が下級生に優しく接するような場面も、きっとたくさん見られるのだろうと想像することができました。飯塚会長は、3日間を終えて、「寺子屋を再開できて良かった。少しでも、子どもたちの成長につながると嬉しいです。」と語ってくださいました。

今回、「寺子屋」の訪問を通して、「地域全体で子どもを育てる」という考えのもと、あいさつやマナーの大切さなどについて教えつつも、決して締め付けずに、子どもたちを温かく見守っていただいていること、異学年の子ども同士が交流する場が大切にされていることに感銘を受けました。そして、学校も「子どもにとって安心できる居場所」になっているか、見直したいと思いました。

7月に行われた「瀬戸神社」の祭礼の際も、子どもたちのために、各町内会が工夫を凝らしながら取り組まれていました。子どもたちの弾ける笑顔が素敵でした。そんな地域の皆様に支えられている大道小は、幸せです。これからも、よろしく願いいたします。